

令和6年3月11日

足立区立伊興小学校
校長 川上 佳士 様

足立区立伊興小学校 開かれた学校づくり協議会
会長 黒川 浩

令和5年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

・学校教育目標「思いやりのある子」「よく考える子」「やりぬく子」「元気な子」を具現化するために、「法令遵守」「都・足立区の教育目標・基本方針」を受け、人権尊重の精神を基盤として国際化・情報化社会を自分らしく生き、自己実現できる児童の育成を目指し、管理職が児童一人一人を大切にしながら熱心に取り組もうとされていることは見受けられるが、一般教員がそこまで取り組めていない。そこには多忙な教員の働く環境の更なる改善が必要である。

・重点的な取組事項「学力向上アクションプラン」については、通過率が学校全体で国語 80.8%、算数 75.1%で、算数の通過率が目標 80%に達しなかった。再度学力向上の学校側の具体策を検討し実施する必要がある。それと同時に「家庭学習を継続的に行う」ための具体策も検討する必要がある。

・重点的な取り組み事項「豊かな心の育成」については、道徳地区公開講座での「いじめ」に関する授業公開は、教員の熱意を感じられ良好であった。「挨拶」については、教員・保護者・地域の人が今一步踏み込んで挨拶をして、「挨拶、日本一！」へ挑戦していく。

・重点的な取り組み事項「体力の向上」については、「学校は体力向上の工夫をしている」の肯定的な回答は80%あるが目標値90%を下回っている、しかも否定的な回答が9%あり、更なる工夫が必要である。ロードでの「持久走大会」の復活や、区のスポーツ大会に水泳・ミニバスケットボール以外の種目にも参加して欲しいと要望がある。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

・協議会での「学級崩壊」、「不登校」についての質問に、校長自ら現状を丁寧に回答くださり、PTA・協議会との協同での更なる取り組みを進めていくとの校長の熱意を感じたと同時に協議会への役割の大きさを痛感した。

・道徳地区公開講座での意見交換会「いじめ問題について考える」において弁護士の先生をお招きしてのパネルディスカッションを通して、とても難しい問題であることを認識したが、学校・PTA・協議会（地域）で積極的に取り組んでいかなくてはならないといけない。

・コロナ禍の影響が緩和され、教職員のPTA・地域行事の積極的な参加が増え、PTA・地域との信頼関係を築き始めている。

3. その他

- ・良い学校という安心感から、協議会として学校評価の回収率が低いのは反省である。
- ・学校公開授業は保護者の参加率が高く良いことですが、教員の熱心な授業に比べ保護者のマナーを改善する必要がある。
- ・災害対応を含め、保護者や地域と連携した危機管理体制をさらに充実させていきたい。
- ・運動会でのお父さんたちのテント張りを含めPTA・図書ボランティア・協議会等活動が盛んである。
- ・子どもが熱心に参加していた様子からも、夏休みの「がんばり教室」などに保護者の学習支援を充実できないか。
- ・教職員の熱意や学校全体に躍動感が感じられ楽しみな学校である。
- ・「食育」について、「保護者も食べたくなる給食」を目指して欲しい。食べることに留まらず、子供が美味しい給食の話をしてくれる、学校のことを話してくれる。学校と家庭との橋渡しの一歩として。

以上